第２講【古代編】西アジアと地中海世界の特質

PART5 古代ローマ世界２

Chapter1　帝政ローマと「パクス＝ロマーナ」

目標
アウグストゥスにはじまる元首政の特徴を理解しよう。
ローマ帝国はいつ最盛期を迎えたのだろうか。

1　ローマ帝国の成立と元首政

オクタウィアヌス

①前 27 年　元老院から〔　　　　　　　　　　　　〕（尊厳者）の称号を与えられる

②「**市民の第一人者（プリンケプス）**」を自称し，共和政の制度を尊重して元老院とも協調した→しかし，実際には軍の最高司令官・執政官・護民官も兼任する皇帝独裁で，ローマは〔　　　　〕となった

※共和政を尊重する帝政を〔　　　　　　〕（プリンキパトゥス）と呼ぶ。

2　五賢帝時代

①オクタウィアヌスからはじまる約 200 年間のローマの繁栄と平和の時代を「〔　　　　　　　　　　〕」（パクス＝ロマーナ）と呼ぶ

②２世紀には〔　　　　　　〕と呼ばれる有能な５人の皇帝によって最盛期を迎えた

A　**ネルウァ**（在：96 年～98 年）

B　〔　　　　　　　　　　〕（在：98 年～117 年）→ローマの領土が最大になり，北はブリテン島から南はサハラ砂漠，西はイベリア半島から東はティグリス川まで達した

C　**ハドリアヌス**（在：117 年～138 年）帝国の領域を維持。ブリタニアに長城を建設

D　**アントニヌス＝ピウス**（在：138 年～161 年）

E　〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕（在：161 年～180 年）哲人皇帝『自省録』

③下層市民に食料と娯楽を提供し社会の安定を図る（「**パンと見世物**」）

④各地に建設されたローマ風の都市を通じて属州を支配→都市の上層市民に〔　　　　　　　　　　　〕を与え，支配に貢献させた

⑤東西交易が活発になり，**季節風貿易**により中国・東南アジア・南アジアから絹や香辛料を輸入し，ガラス器や金貨を輸出

→インド洋の季節風（モンスーン）を利用した貿易で，南インドまで海上交易が拡大

ローマ帝政最大領域

まとめ

アウグストゥスは軍事権の掌握など事実上の皇帝独裁をはじめたが，「市民の第一人者」を自称し，共和政の制度を尊重した。

２世紀を中心に，五賢帝と呼ばれる５人の皇帝の時代にローマは最盛期を迎えた。

Chapter2　古代ローマの終焉

目標
「3世紀の危機」とはどのような事態であったのか学ぼう。
ローマの政治体制は元首政からどのように変わっていったか。

1　軍人皇帝時代と「3世紀の危機」

「ローマの平和」も最後の五賢帝の治世末期頃から，財政問題や経済不振があらわになる。

①212年　**カラカラ帝**のときに帝国領内の全自由人に**ローマ市民権**が与えられた

→ローマ人と外国人の区別がなくなり，属州などではローマに対する忠誠心は薄れた

②3世紀　軍人出身の皇帝が次々に現れる〔　　　　　　　　　　　　〕となった

→235年から284年の**ディオクレティアヌス帝**の即位までの約50年間に26人の皇帝が乱立

A　北方のゲルマン人や東方のササン朝ペルシアの侵入による混乱も発生

→内乱や外圧による社会不安は「〔　　　　　　　　　　　　〕」と呼ばれる

B　生産体制の変化

あ　帝政期にはすでに有力者が，小作人〔　　　　　　　　〕に農地を貸して耕作させる小作制コロナトゥスが広がっていた

い　3世紀の内乱や異民族の侵入に対して，軍隊維持のために重税を課された都市が衰退

→富裕層は都市から逃げ出した下層市民を小作人として働かせたので，小作制が従来のラティフンディアに取って代わった

→中世の農奴制の先駆け

2　ローマ帝国の東西分裂

①〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕（在：284年〜305年）

A　2人の正帝と2人の副帝が分担して東西の帝国を統治する

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕により政治を安定

B　行政・財政・軍事など，さまざまな分野で改革を実施し帝国分裂の危機を回避

C　皇帝崇拝を行い，元老院を無力化すると以降の政治体制は元首政から

〔　　　　　　　　　　〕（ドミナトゥス）となった

→皇帝を神と崇拝しない**キリスト教徒の迫害**を命じる

②［　　　　　　　　　　　　　　］帝（在：306年～337年）→ディオクレティアヌス帝の改革を受け継ぐ

A　帝国全土に拡大していたキリスト教を［　　　　　　　　　　］(313年）により公認

B　小作人（コロヌス）の移動の自由を禁止するなど，身分や職業を固定化

C　330年　ビザンティウムに新しい首都を建設して**コンスタンティノープル**と改称

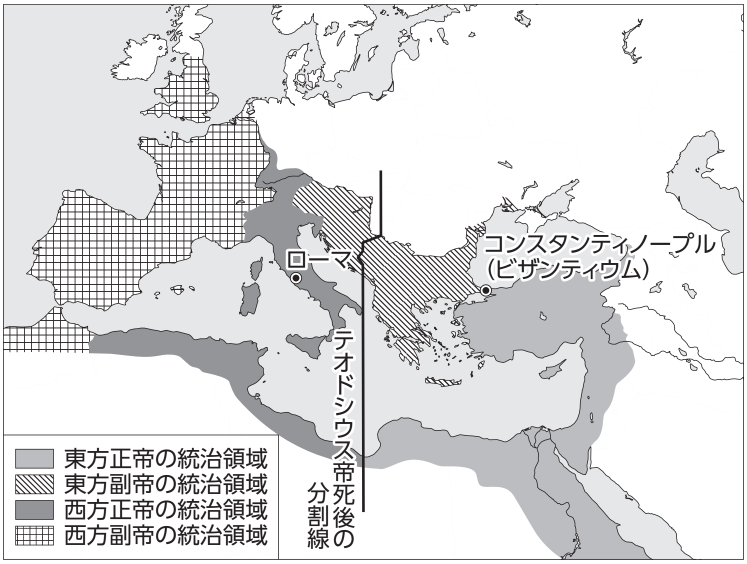
D　官僚体制を整備し，ソリドゥス金貨を発行して交易の活性化を促進

※375年の西ゴート族の南下をきっかけにゲルマン人が帝国内に大移動をはじめた。

③**テオドシウス帝**（在：379年～395年）

A　392年　［　　　　　　　　　　］を**国教**と定める。

B　395年　帝国を［　　　　　　　　］**帝国**（ビザンツ帝国）と［　　　　　　　　］**帝国**に分割



ローマの分裂

まとめ

軍人皇帝が乱立し，内乱や外圧により社会が不安定に陥ったことを「3世紀の危機」と呼ぶ。
ローマはディオクレティアヌス帝により四分統治・専制君主政がはじまり，東西分裂へのきっかけとなった。

第 2 講　PART5　確認問題

1 前 27 年にオクタウィアヌスが元老院から与えられた「尊厳者」の意味を持つ称号は何か。

① インペラトル　② プリンケプス
③ アウグストゥス　④ ディクタトル

2 オクタウィアヌスによってはじまった，プリンキパトゥスともいわれる「市民の第一人者」によるローマの統治体制は何か。

① 帝政　② 共和政
③ 君主政　④ 元首政

3 オクタウィアヌス以降,「ローマの平和（パクス = ロマーナ)」が続いたのは約何年か。

① 50 年　② 100 年
③ 200 年　④ 300 年

4 ローマに空前の繁栄と平和をもたらした 2 世紀の五賢帝の時代，その領土が最大となった時の皇帝はだれか。

① トラヤヌス帝
② ハドリアヌス帝
③ アントニヌス = ピウス帝
④ マルクス = アウレリウス = アントニヌス帝

5 ３世紀におこった，約 50 年間に 26 人の皇帝が乱立した時代を何というか。

① 五賢帝時代　② 軍人皇帝時代
③ 四分統治　④ 内乱の１世紀

6 帝政期から広がった，有力者が解放奴隷や没落した農民を小作人として使用する所領経営は何か。

① ヘイロータイ　② ラティフンディア
③ アシエンダ　④ コロナトゥス

7 ディオクレティアヌス帝以降, 皇帝の地位が大きく高められた政治体制を何というか。

① 専制君主政　② 帝政
③ 絶対君主政　④ 神権政治

8 395 年に帝国を東ローマ帝国（ビザンツ帝国）と西ローマ帝国に分割した皇帝はだれか。

① マルクス = アウレリウス = アントニヌス帝
② ディオクレティアヌス帝
③ コンスタンティヌス帝
④ テオドシウス帝

第 2 講　PART 5　確認問題 解答

1 解答：③　オクタウィアヌスは**「尊厳者」**の意味を持つ**アウグストゥス**の称号を元老院から与えられた。

2 解答：④　市民の第一人者（プリンケプス）による統治体制を**元首政（プリンキパトゥス）**という。

3 解答：③　オクタウィアヌスから五賢帝末期までの**「ローマの平和（パクス＝ロマーナ）」**は**約 200 年**続いた。

4 解答：①　五賢帝の２番目にあたる**トラヤヌス帝**の時代にローマの領土が最大となった。

5 解答：②　３世紀に各属州から軍人出身の皇帝が次々に現れた時代を**軍人皇帝時代**という。

6 解答：④　小作人を使用した所領経営は**コロナトゥス（小作制）**で，従来のラティフンディアから代わった。

7 解答：①　ディオクレティアヌス帝以降，**専制君主政（ドミナトゥス）**となった。

8 解答：④　**テオドシウス帝**は帝国を東ローマ帝国と西ローマ帝国に分割し，キリスト教を国教と定めた。